

当日のプログラム

- 挨拶** 福宮賢一（明治大学学長）
- 第1報告** 国際武器移転史研究所の目指すもの
横井勝彦（明治大学商学部教授・国際武器移転史研究所長）
- 第2報告** 戦争と平和と経済 -2015年の「日本」を考える-
小野塚知二（東京大学大学院経済学研究科教授）
- 第3報告** イスラム過激派のネットワークと現行世界秩序の変化
佐原徹哉（明治大学政治経済学部教授）
- 第4報告** 21世紀の武器貿易は規制できるか
-武器貿易条約（ATT）の実施をめぐる課題から-
榎本珠良（明治大学研究知財戦略機構共同研究員）
- 質疑応答**

報告者プロフィール

横井 勝彦 （Katsuhiko Yokoi）

明治大学商学部教授・国際武器移転史研究所長。科研費共同研究「軍縮と武器移転の総合的歴史研究-軍拡・軍縮・再軍備の日欧米比較-」「軍縮・軍備管理の破綻に関する総合的歴史研究-戦間期の武器移転の連鎖構造を中心に-」等の研究代表を務める。専門は経済史、兵器産業史、武器移転史。

主な著書に『軍縮と武器移転の世界史-「軍縮下の軍拡」はなぜ起きたのか-』（編著、日本経済評論社、2014年）、『軍拡と武器移転の世界史-兵器はなぜ容易に広まったのか-』（共編著、日本経済評論社、2012年）、『日英兵器産業史-武器移転の経済史的研究-』（共編著、日本経済評論社、2005年）など。

小野塚 知二 （Tomoji Onozuka）

東京大学大学院経済学研究科教授。政治経済学・経済史学会 兵器産業・武器移転史フォーラム代表。専門は西洋社会経済史、労務管理・労使関係史、食文化史、音楽社会史、武器移転史。

主な著書に『第一次世界大戦開戦原因の再検討-国際分業と民衆心理-』（編著、岩波書店、2014年）、『労務管理の生成と終焉』（共編著、日本経済評論社、2014年）、『自由と公共性-介入的自由主義とその思想的起点-』（編著、日本経済評論社、2009年）、『日英兵器産業とジーマンズ事件-武器移転の国際経済史-』（共著、日本経済評論社、2003年）、『クラフト的規制の起源-19世紀イギリス機械産業-』（有斐閣、2001年）など。

佐原 徹哉 （Tetsuya Sahara）

明治大学政治経済学部教授。専門は東欧史、中東史、比較ジェノサイド研究。

主な著書・論文に The international Jihadism: A new type of threat and regional cooperation as a remedy, METU Studies in Development, 43 (2), pp. 299-331、『中東民族問題の起源-オスマン帝国とアルメニア人-』（白水社、2014年）、『ボスニア内戦-グローバリゼーションとカオスの民族化-』（有志舎、2008年）、Guerrilla in the Balkans（編著、Institute of Contemporary History、2007）、『近代バルカン都市社会史-多元主義空間における宗教とエスニシティ-』（刀水書房、2003年）など。

榎本 珠良 （Tamara Enomoto）

明治大学研究知財戦略機構共同研究員。2003年から2015年8月まで軍備管理・軍縮等の政策担当として国際NGOに勤務（組織内規に則り仕事名「夏木碧」を使用）。専門は安全保障研究、アフリカ地域研究。

主な著書・論文に『軍縮辞典』（16項目担当、信山社、2015年）、「武器貿易をどう規制するか-第一回武器貿易条約（ATT）締約国会議-」『世界』873号（2015年）、「武器貿易条約（ATT）交渉における対立・摩擦と条約構想の限界」『軍縮研究』5号（2014年）、「通常兵器の移転に関する国際規制の歴史と現状-冷戦終結後の進展とその限界-」『軍事史学』48巻2号（2012年）など。